



江刺区

子どもたちを昔話の世界へ

江刺蔵町モールで昔懐かしい紙芝居会

サポートセンターNPOえさしが運営する「お休み処ふれあい横丁」の紙芝居会が5月23日、江刺区蔵町モールで開かれました。同施設は高齢者の創作作品を展示しており、展示しているだけではせっかくの紙芝居がもったいないと企画されたものです。

集まった大勢の小学生らは、優しい語りによって昔話の世界に引き込まれ、上演後は水あめのプレゼントにご満悦。佐藤李愛さん（岩谷堂小3年）は「昔話がおもしろかった。また見たい」と満足していました。

優しく語り掛ける読み手の佐藤春子さん



多くの市民が訪れ、会場は大盛況

水沢区

賑わい創出の拠点施設開設

O-fes.'11（オーフェス2011）

大町多目的広場（大町オマケット広場）の開設に併せ5月29日、同広場でO-fes.'11（同実行委員会・板屋裕治実行委員長）が開催されました。会場にはさまざまな出店が立ち並び、音楽ライブやフリースロー大会などの催しに、多くの市民が詰め掛け、活気に包まれていました。

中心市街地活性化事業で3on3バスケットコート2面が整備されたこの広場。今後、地域の活性化に向けたさまざまなイベントでの活用が期待されます

前沢区

心ひとつに被災地へ元気を

市内よさこい7団体が演舞を披露



地元会場で元気に演舞する遊夢舞

市内よさこい7団体は5月22日、東日本大震災からの復興と被災者支援を目的に、市内4カ所で華麗な演舞を披露しました。参加したのは幻夢伝、水沢絆舞連（水沢区）、江刺華舞斗（江刺区）、紅翔連、遊夢舞（前沢区）、飛勇凛（胆沢区）、YOSA KOIWA（衣川区）の7チーム。

江刺ふるさと市場を皮切りに、Zプラザアテルイ、焼石クアパークひめかゆ、イオン前沢店を巡り、演舞を披露、合間には募金を募っていました。最終会場のイオン前沢店では、地元の紅翔連、遊夢舞が演舞を披露すると、観客からは一層大きな拍手が起こっていました。集められた募金は、義援金として沿岸被災地に送られます。

水沢区

看護の大切さを胸に刻んで

総合水沢病院ふれあい看護体験

5月12日の「看護の日」に市総合水沢病院（半井潔院長）で、高校生を対象とした「ふれあい看護体験」が行われました。人の命やそれを守る医療・看護について、理解と関心を深めるための看護体験です。

水沢高校2人、金ヶ崎高校3人、岩谷堂高校1人の6人が参加。血圧・脈拍測定などの看護体験や、昼食の配膳、患者の手足を洗ってあげるなど実際に患者とふれあいました。高校生は、看護の大切さを知ったこの経験を将来へつなげることを誓っていました。

「大丈夫ですか」と患者に話しかける高校生



表彰を受ける渡辺凌平さん

前沢区

未来の直木賞作家を目指し

第3回三好京三随筆賞表彰式

第3回三好京三随筆賞の表彰式が5月22日、前沢ふれあいセンターで行われました。この賞は、故・三好京三さんの業績をたたえようとNPO法人三好京三顕彰会（三浦辰郎理事長）が設立したものです。

大人の部は81編の応募があり、最高賞の三好京三賞には水沢区の遠藤カオルさん「義父の井」が、子どもの部は9編の応募中、ジュニア賞として若柳中学校1年の渡辺凌平さん「忘れられないすもうの思い出」が、それぞれ栄誉に輝きました。

衣川区

奥州藤原氏の伝承絵詞発刊

平泉文化の源流「衣川」を紹介

衣川地区振興会（佐藤利男会長）は5月12日、衣川山村開発センターで、冊子「衣川前九年合戦絵詞」を披露しました。これは、衣川に伝わる歴史、先人たちへの理解を深めることを目的に作成したものです。

弘前大学斎藤利夫教授と平泉ユネスコ協会八重樫忠郎理事の監修のもと、同区大森の矢崎静香さん木綿子さん姉妹の文と絵で完成させました。冊子は同振興会会員世帯や市内の小学校、図書館などに配布。衣川の伝承が後世に伝えられることが期待されています。

左から静香さん、木綿子さん、佐藤会長



受け入れ農家の佐々木愛子さんに教わり、イチゴにわらをかける生徒たち

胆沢区

農村風景と人情が心癒やし

ことし初の農村体験学習校が来奥

おうしゅうグリーンツーリズム推進協議会（村上寛会長）は5月11日、宮城県七ヶ浜町の七ヶ浜中学校から、ことし初となる農村体験学習を受け入れました。

来奥したのは2年生の88人。同校は、東日本大震災で校舎が全壊、避難所から通学する生徒もいる状況です。おいしい空気と温かい交流で気持ちを一新しようと、当市への訪問を決めました。生徒らは、21戸の農家に笑顔で迎えられ、風景や会話をしみながら、最盛期の田植えや畑作業に汗を流していました。